

県教委の「聴く会」へ
339人

県はすべての保護者に知らせるべきだ

21日から始まった県教委主催の「小中PTAの意見を聴く会」は、28日の大津会場を最後に終了しました。ここでは、28日に行われた守山の様子をお知らせします。下の は参加者の質問と意見、 は県教委の応答です。

現時点で何校なくすという案はない

統廃合により「魅力と活力」と県が言うなら、「生きる力」を育てる熱心な人材(先生)の充実を。教育にはお金がかかる。県の財政不足を言うな。あり方検討委や産業教育審議会の言う「生きる力」は社会から求められる力だ。先生の力を付けるために、初任研・2年次・5年次・10年次研修をしている。会場の参加者は(2名に)限られている。すべての保護者に県は知らせるべきだ。8月に広く説明会をした。その後、ホームページで知らせている。県は46校のうち、いくつなくすのか。現時点では、何校なくすという案は持っていない。

小さいから悪いとは言っていない

小規模校については、「野洲・守山北・北大津」などの部活のがんばりを見れば問題はないのでは。

小さいから悪いとは言っていない。

他校と合同でチームを作って参加する部もある。

現場の先生の声は反映されているのか



小規模校の現場からは、どんな課題(問題)が上がってきたのか。現場の先生の声は反映されているのか。

現場の先生一人ひとりからは聞いていないが、高校を訪問して、校長先生と十分話した結果である。

6月以来、地域の議会で「統廃合については住民合意を求める」意見書が出ているが。

議会の様子も、意見書が出されたことも聞いている。

県議会への請願署名は12月7日の午前中に提出します。署名が大きな力になっています。いっぱい集めて、最終でも12月6日の午前中までに、届けて下さい。

県の生徒数は減らないのに、H18年の全県一区制以来、地元の高校に行かない子が出てきた。

5~6%の子が他地域へ行くが、8割の子は地元に残っている。

県教委は他地域(旧学区以外)に行く生徒は5~6%と言うが、実際は19.2%(09年度)である。県教委は、大津と湖南と甲賀を1つの学区とし、この3つの学区の間の移動は「他地域にいく生徒」には数えない。事実を偽るトリックである。



7会場で行われた「聴く会」への参加者は339人。米原公民館70人、湖東信用金庫41人、ひこねサンぼれす44人、守山71人、水口39人、高島25人、大津49人でした。会場前でのピラ配りには33人が参加。米原公民館1人、湖東信用金庫3人、ひこねサンぼれす9人、守山5人、水口3人、高島7人、大津6人でした。また、4つの会場では、「聴く会」の後、「考える会」が懇談会を開きました。ここには、28人(彦根9人、湖東5人、水口9人、大津5人)が参加し、率直で有意義な話し合いが行われました。

ストップ高校統廃合 速報第39号

2010/11/29 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)